

祝 辞

本日ご卒業・修了を迎えられました学士、修士、博士、そして別科の資格をとられた皆様方、まずはお祝いを申し上げます。おめでとうございます。それから本日卒業される皆様方を長年にわたって支えられましたご父母の皆様方、恩師、大学を支えてくださいました関係各位の方々に心から御礼申し上げたいと思います。

祝辞ということで、何をお話ししようかといろいろ考えました。私は企業人として経営にも携わっております。私自身は現在、学校法人城西大学の理事長をしておりますが、傍ら経営にも携わっておりますので、普段から心がけていること、その延長上でのお話と卒業される皆さんに期待していることを申し述べて、お祝いの言葉とさせて頂きたいと考えております。

企業人として私がまず考えていることは「着眼大局・着手小局」ということです。これは、今の大きな時代の流れがどのように変化しつつあるか。どういう方向に向かっているか。そういうことを睨みながら、企業ですと各業界、大学ですと教育業界、あるいは大学の在り方、そしてどのような学生さんを私共は世間に送り出すべきか。こういうようなことをしっかりと頭に刻むことが即ち「着眼対局」です。そして「着手小局」は例えば城西国際大学にできることを一歩ずつ進めることでもあります。

まず「着眼大局」。今の時代をどう見るかということです。大きな流れが二つあると思います。一つ目はグローバル化。これは言うまでもなく、皆さんも実感しておられると思います。ヒト・カネ・モノ、こういった資源、投資の案件や技術、情報が世界中に広まることによってそれぞれの国が豊かになる。特に新興国が大きく経済成長し、或いは情報が行き渡ることによって生活者主体の主権的な世の中になってきたと思います。それが光の部分だと思えます。影の部分としましては、格差問題が非常に広がってきた。世代間格差、貧富の格差、教育格差、さらには資源・環境、政治経済、こういうものが今大きな問題となっております。

グローバル化に伴う影の部分克服すべく、現在では SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) を各国が達成しようとしているわけです。17 項目あるそうですが、「貧富の差」「人種間差別」をなくそう、「健康」や「質の高い教育」を皆で共有しよう、「乱獲などをなくし、クリーンエネルギー導入で資源を守る」といったことを世界中で一緒にやりましょうという流れ

が起きているわけであります。

これらを達成するために、第4次産業革命（ソサエティ5.0）が現在提唱、施行されていると思います。第1世代（狩猟時代）、第2世代（農耕時代）、第3世代（製造時代）、第4世代（情報時代）を経て、第5のソサエティ5.0の時代の今は、モノとシステムを統合して社会的な問題を解決したり新しい経済価値を創ったりといった動きが非常に強く起こっております。これが大きな意味での時代の流れではないかと私自身は考えております。その第5世代の社会に、皆様方は今日から第一歩を踏み出すわけであります。

そういった中での「着手小局」は、皆様方に期待する第一歩の歩みとは何かということであります。人生100年時代、日本に100歳以上の方はなんと8万人以上いらっしゃる。男性の平均寿命80歳、女性は86歳。そう考えますと、これから歩み出される皆様方は、自分の人生100年をどう生きていくべきかということを考えて、一日一日歩み出されるのが良いのではないかと考えております。

20年をひと節として、人生100年には5つの節がある。このように刻んでいろいろとお考えになってはいかがかと思います。第1の節は、今日皆様方が終わられる、この卒業までの「基礎を勉強する時代」だと思います。学問的な基礎、そして身体を鍛える、情操を豊かにする、こういう基礎を勉強される時代です。小学校からずっと基礎を培ってきたわけですが、本当にこの道を修めようと思われたのは、日本で言うと高校2年ぐらいから大学を卒業されるまでの6年間ぐらいではないかと思います。6年間、学問、スポーツ、芸術に触れ、アスリートになりたい、演奏家になりたい、学問を身につけたいと、あらゆる分野で努力し、情報を集めてそれを分析して、どのようにしたら自分は一流になれるかを考え、そのための具体的な施策を実行するという「リテラシー」の基本を大学で学ばれたのではないかと思います。基礎の第2は「リベラルアーツ」。自分の専門領域以外にも文系、理系、医系、スポーツ、芸術などあらゆるものに興味を持ち、或いは実社会や留学先での経験を通して、ものを見る目を豊かに広げることによって、問題点を捕まえるにおいても多角的な視点で見られるようになる。これが基礎における一番重要な領域で、皆様方は今それを終えられたのだと思います。しかし、20歳を迎えられてから平均寿命の80歳までは60年間、100歳までだと80年間あるんですね。これまでの延長上でのみこれからの自分の人生があると考えるのは、少し早いのではないかなと思います。

これからの20年間、第2の節は、実際に世の中に出ていろいろな体験をして

そこから自分で吸収して、さらに成長されることを期待致します。第2の節は実践編。実学を身につけられるということではないかと思えます。まず情報は自分で集める、歩いて人から話を聞く、勉強する、ほかの人と意見を戦わせる、国を超えていろいろな意見交換をする、こういう情報収集は単に本だけではなく実際に歩いて集めるということが重要だと思えます。次にそれを分析しながら何が問題なのか、どうしたらよいか。問題点の把握と、取り組むべき課題を見つけることです。さらに解決するためにはいろいろな方々の意見を聞き、議論を戦わせたうえで実行するということが重要ではないかと思えます。情報収集のためには自分のアンテナを高く、広く、そして深くする。芸術の面でもスポーツの面でも、あるいは今の時代をどう見ているかということでも、いろんな考え方をお聞きして、自分のやりたい領域ではそれはどういう意味があるのだろうか、と噛み砕いてみるということが重要です。そして情報を集めたら、絶えず「何故か、どうしてか」と疑問を持つこと。「何故か、どうしてか。もっとうまくなれないか」。こういう問題意識があって初めて、成長できるのではないかと思えます。

何かを研究しようといろいろ調べても、それで終わっては意味がないんですね。仮説を立てて、実行してみて、その問題を解決する。このプロセスが重要なのです。しかし1回だけの仮説・実行の結果、うまくいなくても「失敗した」と思っははいけません。考えてみれば、私もそうですが、生まれながらに全部成功するような人生などあり得ないですよ。結局は自分の人生から何を学んでいくか、吸収していくかということが勝負なのです。したがって、自分のやりたいことがあったら、仮説を立てて、どこがうまくいかなかったかを考えてみる。よその人がやっていることを真似しただけじゃ、ちっとも吸収できないんです。自分の頭で考えること。考えた結果どこを間違ったかがわかる。第1節の基礎編で学んだことをしっかりと反復することが重要なのではないかと考えております。そして一生懸命にやるうちに、大学時代とはまた違った、仕事の本当の意味合いとかいろんな面が見えてきます。遅くとも40歳までにはいろいろな仕事の中身を知って、自分の人生をかける価値のあるやりたいことを見つけるべきではないかと考えております。中国の有名な思想家、孔子がっております。15にして学の志を立て、30にして立ち、40にして惑わず。これから皆さんは世の中に立つわけです。一步一步歩んで頂きたいと思っております。

私自身の座右の銘は「明日の自分は、今日自分が何を考え、何を実行したかの結果である」です。ひとさまが自分のためにやってくれるわけではない。自分の人生は自己責任だ。このように思い、毎日毎日を無駄なく過ごすことをモットーとしています。皆さんもこれからしっかりと問題意識をもって歩んで行っ

て頂きたいと思います。

新型コロナウイルス感染症が拡大したことによって世の中のものの見方、考え方が大きく変わりつつあります。それを踏まえ、最後に皆様方に「4つのC」という言葉を差し上げたいと思います。「4つのC」の最初は、Change=変化。環境は変化した。コロナによって働き方も勉強の仕方もガラッと変わったわけです。それが浮き彫りになってきた。

2番目のCはChance。世の中は変わり、そして先ほどのソサエティ5.0で言われるように、モノとIoTといったシステムやAIの進化とを合わせて新しい社会的な価値を創るということ、経済的価値を創るということ。これが求められているわけです。そういった意味で見ると、大きなチャンスが皆さんのすぐ前に横たわっているのです。チャンスです。

3番目のCはChallenge。環境が変わり、チャンスを目の前にしたら、自分の考え方も変えなきゃいけない。今までの延長上ではやっていけないですよ。新しい環境に対応しなきゃいけない。だから発想を変えなくてはならない。大企業に就職すれば一生安泰、そういうことはなくなったわけです。世の中にどうやったら貢献できるか、ということを考えなければいけない。そういった意味では自分の発想を変え、挑戦しなくてはならない。

そして4番目にはCharge。やると決めたら猛烈果敢に攻めろ。毎日毎日定時で帰って、それだけの安楽な生活でなく、やると決めたら徹底的にやるということ。そうしないと、物事の神髄はわかりません。この「4つのC」を心掛けて、これからも進んで頂きたいと思います。

同じような社会の変化は教育界にも、大学の競争の中にも、そして次代の人材を育てる大学教育にも求められているわけです。ですから、我々大学に携わる教職員も従来の発想の延長線上だけでは社会に対してお役に立てない。自らも変わることを皆さんにお約束して、皆さんと一緒にこの変化の時代を歩みたいと思っています。どうか、明日から一歩ずつ社会に貢献する人間として大きな歩みを始め、一生涯歩み続けて頂きたいとお願いして、挨拶と致します。本日はおめでとうございます。

2020年8月31日
学校法人城西大学
理事長 上原 明